

弓道部の思い出

水野 雅敏 (35回)

私が藤枝東高等学校に入学したのは昭和34年4月でした。高校入学をきっかけにして何か新しいことに取組みたいと思っていました。私が選んだ部活動は弓道だった。私の家の近くに矢場があり、小さい時から慣れ親しんでいたことと私の祖父も弓を引いたことがあって親近感があったからだと思う。

弓道部は創部間もない歴史のない部で、弓道場は校舎の一番奥の柔道場と古い校舎を利用した図書館に挟まれた所にあり、射小屋(弓を引く所)はトタン屋根で床を張った粗末なものであり、使用のない時や雨降りの時には通路にもなる所であった。(後に戸もつけられ弓道場らしくなった)

新入生は初めは素引き(矢をつがえずに弓を引く)から始まり巻端で射型をつくり、夏休みに入る前頃からようやく的を射ることができた。的に向かうようになりようやく面白味もできてきた。

私達に弓道を指導してくださっていたのは岡部町内谷在住の蒔田隆之助先生範士八段でした。時折、放課後の部活動が終わってから希望者で国道一号線を弓を担いで4キロも離れた蒔田先生の所まで指導を受けに通いました。当時は一号線も車の通行は少なく、今の車社会ではとても考えられないことでした。

その後、夜間岡部まで通うのは危険ということで、蒔田先生や弟子の大橋清史先生錬士六段が学校に来てくださるようになりました。

先生の指導は単に弓を引くことだけではなく、弓道の精神の根本まで指導してください、当時の県内にあっては一目置かれていた存在であった。

私達の頃の弓道部の戦績で記憶に残っているものは、一年の時県大会で準優勝し岐阜

での東海四県大会に出場。翌年は静岡が会場ということで三校出場できることになり、何とか三位になり二年連続の東海四県大会に出場できたことでした。その時の練習では、照明設備のない道場でしたので、自転車並べて的を照らしながらやっていたことがとても印象に残っております。今でも忘れられない思い出です。

その後、道場は校内の現在の場所に新築移転され、他校にも引けをとらない立派なものとなり、後輩達の努力で全国大会にも出場できるようになり、我部出身者が大学弓道部でも活躍し、立派な指導者として多数育っております。我校弓道部は弓道の精神を大切にすることに徹し、スポーツとしての弓道、武道としての弓道の精神が伝統として脈々と受け継がれております。



部活動小史

藤枝東高音楽部発足所感

大塚 修一郎 (31回)

「人生は何も成さずにいるには余りにも長過ぎ何か成就するには余りにも短すぎる」とは誰の言葉だったのでしょうか。昭和30年夢一杯の希望を持って藤枝東高に入学しました。当時東高にはサッカーと勉強以外の重要視されな風潮があり雨天体育館の片隅に音の欠けたピアノが1台あるのみで雨天ともなればバレーボールやバスケットボールが飛び交い音楽部員も無だったように思います。

昭和32年静岡国体が予定され、東高グラウンドはサッカーのメインスタジアムになり、チームも優勝を期待され市民挙げての熱狂に包まれることになりました。

そして母校の為に校歌と応援歌を高らかに吹奏したい、そんな思いが志を同じくする同級生と後輩の必死の東奔西走で吹奏楽部創立が実現いたしました。然し「楽器が調達出来ない」と途方にくれていると「パン屋を校内でやってその利潤で楽器を購入

しよう」と当時の生徒会長神谷氏が救いの手をさし述べてくれました。利益を見込んで楽器は購入出来ましたが、その後のパン屋の運命については定かではありません。神谷氏と学校側の御配慮に深甚の敬意を表します。

又、財政的な無心をお願いした藤枝市教育委員会様にも「楽器の貸与」という格別な御配慮を決定され、心底より感謝申し上げます次第でございます。

32年4月新入生を迎えて連日嵐の様な特訓が続きました。唇を腫し、目を真っ赤にして、合宿までしてやっと開会式に演奏が間に合いました。

そしてサッカーの試合も東高が優勝し、市中パレードも立派に出来、錦上花を添える事が出来ました。当時の部員の皆様に深く低頭してお礼とねぎらいの言葉を申し上げなければなりません。

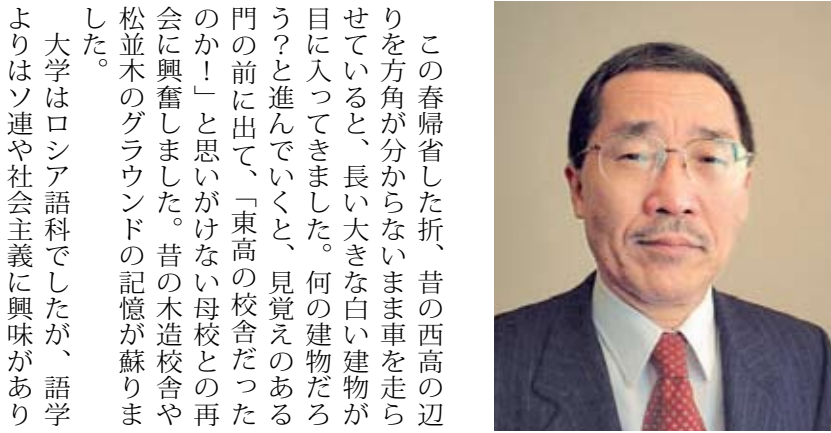
昨年、音楽部創立50周年記念会が催され、一つの目標に向かって苦楽を共にした旧知の人達とお会い出来、胸が熱くなるのを感じました。

音楽部を卒業されてプロになられた方や、教員として音楽を専攻された方など様々でございますが、人生の糧として今後大いに音楽を楽しんで頂ければ幸いです。

終わりに東高音楽部の更なる発展と御関係の皆様のご清勝をご祈念申し上げます。音楽部創設の感想の一端といたします。



昭和32年 サッカー会場(静岡国体)での吹奏行進



ロシア追想

村松 昭南 (33回)



一九九一年クーデタ事件の後転任したレニングラドは、街は荒廃し社会の混乱は目を覆うほどでした。私の最初の仕事は、日本総領事館の名称を、在レニングラードから在サンクトペテルブルクに改めることでした。

その後、道場は校内の現在の場所に新築移転され、他校にも引けをとらない立派なものとなり、後輩達の努力で全国大会にも出場できるようになり、我部出身者が大学弓道部でも活躍し、立派な指導者として多数育っております。我校弓道部は弓道の精神を大切にすることに徹し、スポーツとしての弓道、武道としての弓道の精神が伝統として脈々と受け継がれております。

「端坐」
啓蒙や忍の一字のごとき石
落葉踏み天を鏡と思ひけり
天が下雨垂れ石の涼しけれ
雨も降り菊飯をうまくせり
龍蛇眼の見える夢ばかり

「山国抄」
鳥けもの喜雨山中に出で逢へや
露さの茶山のまろさ父母を抱け
閑うて鷹の毛ぐりし深雪なり
松出草今生や師と吹かれゆく
はるかなる鶯へ春寂の身を起す



ブーチン大統領(当時)と
2002年・サンクトペテルブルグ

（前サンクトペテルブルク総領事
海外邦人安全協会 事務局長）

拡大均衡が日ロ外交の原則となり、両国関係の進展は目覚ましいものがあり、ロシアは懐の深い、長期的な視野で物事を考える国です。我が国もそれに対応してロシアとの関係を考えたものです。



第82回(2008年) 国展『しなやかに』

励まされて

青木 鐵夫 (32回)



ある日は校長室に呼ばれた。校長は野呂元先生である。先生は春眠と号し俳誌「海鷹」を主宰なさっていた。「海鷹」の表紙をやるように云われた。高校生の私にと驚いたが、版画をやっていた私へそれは励ましであった。高校を卒業してからも先生は私を覚えて、私の個展に度々顔を見せてくださった。「他人の真似をするのはよくないが、自分の真似をするのはよくない」と云われたのはいつのことである。この言葉の厳しさを伝えるこの野呂先生の言葉は、私の座右の銘である。版画を始め五十年にわたる。一つのことを続けるには、本人の力だけでは足りないものがある。友人の力だけでは足りない。野呂先生も叱咤され激励されての今だと思ふ。私は「人間」をテーマに作品をつくってきた。続けてきた。不器用で

ある日は校長室に呼ばれた。校長は野呂元先生である。先生は春眠と号し俳誌「海鷹」を主宰なさっていた。「海鷹」の表紙をやるように云われた。高校生の私にと驚いたが、版画をやっていた私へそれは励ましであった。高校を卒業してからも先生は私を覚えて、私の個展に度々顔を見せてくださった。「他人の真似をするのはよくないが、自分の真似をするのはよくない」と云われたのはいつのことである。この言葉の厳しさを伝えるこの野呂先生の言葉は、私の座右の銘である。版画を始め五十年にわたる。一つのことを続けるには、本人の力だけでは足りないものがある。友人の力だけでは足りない。野呂先生も叱咤され激励されての今だと思ふ。私は「人間」をテーマに作品をつくってきた。続けてきた。不器用で

「人生は何も成さずにいるには余りにも長過ぎ何か成就するには余りにも短すぎる」とは誰の言葉だったのでしょうか。昭和30年夢一杯の希望を持って藤枝東高に入学しました。当時東高にはサッカーと勉強以外の重要視されな風潮があり雨天体育館の片隅に音の欠けたピアノが1台あるのみで雨天ともなればバレーボールやバスケットボールが飛び交い音楽部員も無だったように思います。

「人生は何も成さずにいるには余りにも長過ぎ何か成就するには余りにも短すぎる」とは誰の言葉だったのでしょうか。昭和30年夢一杯の希望を持って藤枝東高に入学しました。当時東高にはサッカーと勉強以外の重要視されな風潮があり雨天体育館の片隅に音の欠けたピアノが1台あるのみで雨天ともなればバレーボールやバスケットボールが飛び交い音楽部員も無だったように思います。

「山国抄」
鳥けもの喜雨山中に出で逢へや
露さの茶山のまろさ父母を抱け
閑うて鷹の毛ぐりし深雪なり
松出草今生や師と吹かれゆく
はるかなる鶯へ春寂の身を起す

「山国抄」
鳥けもの喜雨山中に出で逢へや
露さの茶山のまろさ父母を抱け
閑うて鷹の毛ぐりし深雪なり
松出草今生や師と吹かれゆく
はるかなる鶯へ春寂の身を起す

「山国抄」
鳥けもの喜雨山中に出で逢へや
露さの茶山のまろさ父母を抱け
閑うて鷹の毛ぐりし深雪なり
松出草今生や師と吹かれゆく
はるかなる鶯へ春寂の身を起す



「山国抄」
鳥けもの喜雨山中に出で逢へや
露さの茶山のまろさ父母を抱け
閑うて鷹の毛ぐりし深雪なり
松出草今生や師と吹かれゆく
はるかなる鶯へ春寂の身を起す

「山国抄」
鳥けもの喜雨山中に出で逢へや
露さの茶山のまろさ父母を抱け
閑うて鷹の毛ぐりし深雪なり
松出草今生や師と吹かれゆく
はるかなる鶯へ春寂の身を起す

「山国抄」
鳥けもの喜雨山中に出で逢へや
露さの茶山のまろさ父母を抱け
閑うて鷹の毛ぐりし深雪なり
松出草今生や師と吹かれゆく
はるかなる鶯へ春寂の身を起す

「山国抄」
鳥けもの喜雨山中に出で逢へや
露さの茶山のまろさ父母を抱け
閑うて鷹の毛ぐりし深雪なり
松出草今生や師と吹かれゆく
はるかなる鶯へ春寂の身を起す

「山国抄」
鳥けもの喜雨山中に出で逢へや
露さの茶山のまろさ父母を抱け
閑うて鷹の毛ぐりし深雪なり
松出草今生や師と吹かれゆく
はるかなる鶯へ春寂の身を起す

「山国抄」
鳥けもの喜雨山中に出で逢へや
露さの茶山のまろさ父母を抱け
閑うて鷹の毛ぐりし深雪なり
松出草今生や師と吹かれゆく
はるかなる鶯へ春寂の身を起す

俳句と私

村越 化石 (12回)



「山国抄」
鳥けもの喜雨山中に出で逢へや
露さの茶山のまろさ父母を抱け
閑うて鷹の毛ぐりし深雪なり
松出草今生や師と吹かれゆく
はるかなる鶯へ春寂の身を起す

「山国抄」
鳥けもの喜雨山中に出で逢へや
露さの茶山のまろさ父母を抱け
閑うて鷹の毛ぐりし深雪なり
松出草今生や師と吹かれゆく
はるかなる鶯へ春寂の身を起す

「山国抄」
鳥けもの喜雨山中に出で逢へや
露さの茶山のまろさ父母を抱け
閑うて鷹の毛ぐりし深雪なり
松出草今生や師と吹かれゆく
はるかなる鶯へ春寂の身を起す

「山国抄」
鳥けもの喜雨山中に出で逢へや
露さの茶山のまろさ父母を抱け
閑うて鷹の毛ぐりし深雪なり
松出草今生や師と吹かれゆく
はるかなる鶯へ春寂の身を起す

「山国抄」
鳥けもの喜雨山中に出で逢へや
露さの茶山のまろさ父母を抱け
閑うて鷹の毛ぐりし深雪なり
松出草今生や師と吹かれゆく
はるかなる鶯へ春寂の身を起す

「山国抄」
鳥けもの喜雨山中に出で逢へや
露さの茶山のまろさ父母を抱け
閑うて鷹の毛ぐりし深雪なり
松出草今生や師と吹かれゆく
はるかなる鶯へ春寂の身を起す

特別寄稿

随想

東高と私



「山国抄」
鳥けもの喜雨山中に出で逢へや
露さの茶山のまろさ父母を抱け
閑うて鷹の毛ぐりし深雪なり
松出草今生や師と吹かれゆく
はるかなる鶯へ春寂の身を起す

「山国抄」
鳥けもの喜雨山中に出で逢へや
露さの茶山のまろさ父母を抱け
閑うて鷹の毛ぐりし深雪なり
松出草今生や師と吹かれゆく
はるかなる鶯へ春寂の身を起す